

新型コロナウイルス患者を入院で約800人、外来で約2200人受け入れてきた。2021年の春の第4波では一つの病棟をコロナ専用切り替えたが、瞬間に病床が埋まった。呼吸停止の患者の受け入れ要請さえ断らなければならぬ場面もあり、対応していたスタッフが悔しくて涙を流すなど、極めてストレスが高い状況で「これはもう災害だ」と感じた。

オミクロン株に置き換わった第6波以降は、感染者の急増とともに入院患者が常任幹事団体を務める協議の月6日の大阪社会保険推進協議会「大阪シンポジウム」を開催した。安達克郎会長は、口ナ禍3年を問う医療・保健の現場から紹介する。

2020年1月から始まった新型コロナウイルス感染症は、感染の波ごとに新規感染者数、死者数を更新している。大阪の状況を見ると100万人当たりの死者数は全国1位だ。シンポジウムでは「なぜ大阪でこれだけひどいコロナ禍が起きたのか」を考えたい。

# 行政の責任で病院支援を

耳原総合病院院長  
河原林 正敏



患者や職員に陽性者が相次いだ。第7波では職員12・7%が感染し、感染ピーク時には職員の約5%が勤務できなくなっていた。災害モードに切り替えて一般診療を制限し、緊急性の少ない手術や検査入院を延期したが、それでも救急の受け入れ制限に追い込まれた。

# 大阪のコロナ禍 3年を問う

大阪社会保険推進協議会会長  
茨木診療所所長  
安達 克郎



まさに医療崩壊が大阪で起こったのである。その後の第5波、第6波、第7波でも医療現場は危機的な状況に陥った。多くの団体が再三にわたって大阪府・市に対し、PCR検査の拡充や保健所機能の強化、病床削減の撤回などを要請してきたが、行政は聞く耳を持たなかった。

# 口腔粘膜疾患を学ぶ

生涯研 ステージごとのケアを

臨床学術部は11月20日、生涯研修講座「口腔粘膜疾患診断のポイント」をM&Dホールで開催した。小川美氏(市立池田病院歯科口腔外科副部長、写真)を講師に52人が参加した。



講師 小川美氏 (市立池田病院歯科口腔外科副部長、写真) を講師に52人が参加した。

①口腔粘膜疾患の特徴②口腔癌との鑑別③化学療法における口腔粘膜炎の予防④化学療法・放射線治療中、療養期、エンドオブライフ期ではDefensiveなケアが必要であると解説した。また、口腔粘膜炎のグレード分類(1-4)のそれぞれの症状に応じた具体的な対応が示された。

# 返戻時に査定理由明記

11月審査分から順次

大阪府国民健康保険団体連合会は11月14日、医療機関へ送付する「増減点・返戻通知書」と「増減点連絡書」に査定結果の理由を記載することを明らかにした。11月審査分から順次対応する。

これまで審査結果については、増減点事由記号(AKK)のみ記載があった。同連合会は「査定理由の詳細化を図る」と

大阪大学歯学研究科 口腔科学フロンティアセンター 教授 野田 健司 助教 Lu Shou-Ling

# 基礎生命科学的 課題として注目

私たちの教室では細胞が自らの構成成分を分解する現象、オートファジーについて研究しています。大隅良典先生がノーベル生理学医学賞を受賞されたこともあり、大隅先生と研究をはじめた三十余年前、ほとんど馴染みのなかったこの言葉にも、聞き及ばれたかたも増えたことを実感しています。

訪れた社会にとって、健康寿命は社会的関心の高い話題となってきました。それに伴い、寿命や老化などは、私どもの扱うような基礎生命科学的の課題としても注目されるようになってきました。

# 歯学研究が開く 歯科の未来 最終回 オートファジーは健康寿命に寄与するか？

# 共同研究

あるきっかけで始めた共同研究において、ダットン(韃靼)そばの実の抽出液のオートファジーへの影響を調べました。ダットンそばは別名、苦そばとも呼ばれ、主に中国高地で栽培されています。特にダットンそばを主食とする少数民族、彝(イ)族の生活習慣病の発生率が低いことから、その健康効果に注目されています。

# 多様な食生活の 知見との接点

一方で、世界各地で営まれてきた多様な食生活に根ざした知見が、私どものような基礎研究とも接点を得るという事実少なからぬ快哉が呼ばれています。このような研究がさらに発展する夢をみながら、今後とも基礎科学から歯学研究を支えてまいります。

ダットンそばの成分ケルセチンにオートファジーを誘導する効果があることが判明

